

Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

● 東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙 ●



みすず書房の本棚

[無料送付]

No. 20 2016 秋

(表示価格は税別です)

113-0033 東京都文京区本郷 5-32-21 tel. 03-3814-0131 http://www.msz.co.jp

「ピープル」とEU離脱

ブレイデイみかこ

「ピープル」という言葉を聞いて誰もがまず思い浮かぶのは「人々」「民衆」といった和訳だろう。しかし、英国の「ピープル」は違う。それは歴史的に「労働者階級」のことだった。終戦の年一九四五年にチャーチルが総選挙でまさかの惨敗を期し、クレメント・アトリー率いる労働党政権が誕生した時のことは、ケン・ローチのドキュメンタリー『The Spirit of 45』に詳しい。それは「ピープルの革命」と呼ばれたし、「ゆりかごから墓場まで」の福祉制度を作りだしたアトリー政権は「ピープルの政府」と呼ばれた。

だが、労働者階級が「ピープル」と呼ばれなくなって久しい。英国の書店では本書の隣に並んでいることの多いオーウェン・ジョーンズの『Chavs』が指摘しているように、「自分の肉体を使って労働に従事しているといういわゆる〈伝統的〉な労働者階級は、本書が発点とする一九一〇年において、イギリス人の大多数を構成していた。一世紀が経ち、状況はもはや同じでないといえ、二〇一〇年にほとんどの人がいまだ自分たちは労働者階級に属するのだと主張していた。この本でわたしはそうした人びとの話を語ろうと思う。」

一九一〇年から二〇一〇年にかけての百年は労働者階級の世紀であった。歴史家E・P・トムスの言葉を借りれば、産業革命のあいだ労働者階級は「みすずからの形成に立ち会っていた」。炭坑労働者と職人は自分たちの利益を促進するために団結し、雇用主の利益を異を唱えた。しかし、ほとんどのイギリス人が自分たちは労働者階級であり、政治家と

今世紀の労働者階級は、「アンダークラス」「社会の厄介者」というイメージでとらえられてきた。しかし前世紀を振り返れば、労働者階級は社会のアウトサイダーどころか、一九五〇年代には人口の七五パーセントを占め、一九九〇年代だっ人口の半分以上上だった。二〇世紀の英国を語る時、労働者階級を無視することは人口の大多数を無視することだ。彼らが自らの権利に覚醒した一九一〇年代から第二次世界大戦にかけて、政治家たちは労働者階級を「アンダークラス」ではなく「ピープル」と呼んでいた。少数の支配者階級とは違う、市井の人々をみんな「ピープル」だった。

一九五〇年代から一九六〇年代になると、労働者階級のティーンたちは英国のポップカルチャーの主役になつていきました。富裕層のティーンたちはまだ大学に通っていたが、労働者階級の若者はすでに働き、可処分所得を持っていた。彼らはロックンロールのレコードやスクーターを買って、流行の服に身を包んでダンスホールに通って、ストリートファッションを生み出す。

一九四五年の人民のスピリットで誕生した労働党政権は、大学授業料を無料にするなどして「ピープル」の子供たちが大学進学することを可能にした。スウィング・ロンドンの原動力は、労働者階級の若者たちが、芸術、音楽、メディア、ファッションなどの分野に進出できるようになったことだと言われている。七〇年代後半に登場したパンク・ムーヴメントでも、セックス・ピストルズは労働者階級のヤバさを発散して

さえた。富裕層のティーンたちはまだ大学に通っていたが、労働者階級の若者はすでに働き、可処分所得を持っていた。彼らはロックンロールのレコードやスクーターを買って、流行の服に身を包んでダンスホールに通って、ストリートファッションを生み出す。

「一九四五年の人民のスピリット」で誕生した労働党政権は、大学授業料を無料にするなどして「ピープル」の子供たちが大学進学することを可能にした。スウィング・ロンドンの原動力は、労働者階級の若者たちが、芸術、音楽、メディア、ファッションなどの分野に進出できるようになったことだと言われている。七〇年代後半に登場したパンク・ムーヴメントでも、セックス・ピストルズは労働者階級のヤバさを発散して

ミドルクラスの若者たちを魅了したが、ミドルクラス出身のクラッシュのジョー・ストラマーは生涯その刻印を背負って生きたという説もある。いまとなつては隔世の感があるが、クールであるためには労働者階級出身でなくてはならない時代があったのだ。

今年六月のEU離脱投票での離脱派の勝利は、「労働者階級の反乱」と言われた。海外メディアの多くは、「英国の下層に広がった醜い排外主義の現れ」と報道していたが、それはずいぶん単純に決めつけた、一方的論調だったと思う。英国民の半分以上がレイシストなら、そもそも英国はいまのような多民族国家になつていないだろう。

国内では、EU離脱を「一九四五年以来のピープルの革命」と評した論客たちもいた。グローバル主義は一部の企業と支配者階級のためにのみ機能し、雇用主と政治家は移民労働者を安価で搾取可能な賃金奴隷にし、「ピープル」は「アンダークラス」に落ち、緊縮財政で餓死者まで出るようになった時代だ。二〇世紀はじめ以降のどの時代と比べても格差が大きくなったこの時代に、一九一一年にロンドンから全国規模に

広がったストライキのようにエスタブリッシュメントたちを震撼させる出来事(=EU離脱)が起きたのは偶然ではない。EU離脱騒動から約二カ月が過ぎ、ようやく冷静になつた識者たちは、いま重要なのは、労働者階級を愚かな排外主義者とバツシングするのではなく、「富の分配」について考えることだと語り始めた。あのホーキング博士までもが新聞に経済政策の重要性を説く今日のごろだ。

近年の左派の多くは、難民問題や相次ぐテロ事件のせいで民族や国家といったアイデンティティの問題にばかり目を向け、その裏で淫らなまでに広がり続ける格差と貧困の問題を軽視してきた。それは、いまやアンダークラスと呼ばれ社会のアウトサイダーにされた労働者階級の衰退と間違いないリンクしているだろう。

EU離脱は「偽物の労働者階級の反乱」と言う識者もいた。なぜなら、それを率いたのはボリス・ジョンソンやマイケル・ゴヴのような保守党の超エリートや、右翼政党UKIPの元党首ナイジェル・ファラージだったからだ。しかし、これらのリーダーたちはEU離脱が決定すると次々に姿を消した。「本当に離脱になつてしまつたので、自分たちが騙した下層民を残してパニックして逃げ出した」とメディアは囁き立てたが、英国の「ピープル」は実のところエリートたちの逃亡に動いていない。

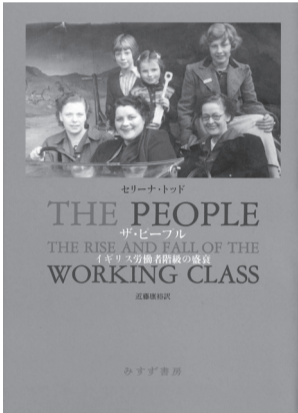
ギャンブル好きの労働者階級の人々はEU離脱に賭けた。そして「富の分配」が為政者たちの口に久しぶりにのぼるようになった。それがこれからどう進むかはわからないが、賽は投げられたのである。こうして英国労働者階級の歴史は二一世紀も紡がれ続けて行くのだ。(保育士・作家、英国在住)

等身大の労働者群像で綴る 英国現代史 1910-2015

セリーナ・トッド

《ザ・ピープル イギリス労働者階級の盛衰》

近藤康裕訳



新聞から労働者階級として扱われていくと認識するようになるのは二十世紀になってからだった。労働者階級が「人びと」となり、その利害がイギリス自体の利害と同義となったのも二十世紀において——とりわけ第二次世界大戦中と戦後——であった。(…)

階級というのは、生活様式や変わることに文化によってではなく、不平等な力によって定義される

「ゆりかごから墓場まで」の福祉先進国から「社会なし」「オルタナティブなし」の新自由主義先進国へ。一九一〇年以降の世紀、ピケティのU字曲線を「人びと」はどう生きてきたか。「自分たちの置かれた状況にいかに対応し、抵抗し、またいかにその状況を変えていったのか」。等身大の名もなき労働者群像が織りなすイギリス現代史。第二版後記「わたしたちの現状 2011-2015」収録。【歴史】 (A5判・504頁・六八〇〇円)

▽今月23日(金)から開かれる「東京国際ブックフェア2016」の招待券プレゼント受付中(詳細は本紙最終面)、締切は19日(月)、必着です。どうぞお早めにお申し込み下さい。

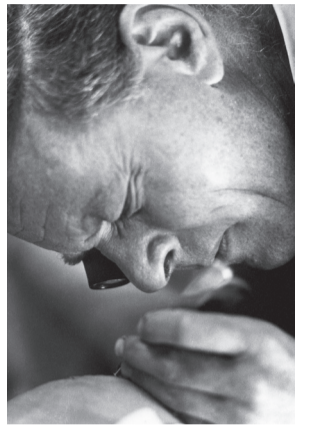
ブッカー賞作家J・バージャーと写真家J・モアが、一人の田舎医師の姿を通して人間と医療の本質を浮彫にした傑作ドキュメント。

舞台はイングランド南西部の山村。英国の階級社会の最下層に生きる村人たちの窮状は、貧困やそれに伴うさまざまなスティグマに絡めとられている。医師ササルはその村に住みつき、傷を負った者に死に瀕する者、孤独な者のケアに当たる。ササルが医師として村人との間に築いた稀有な関係性を、作家と写真家は透徹した視線で描写する。

治療者とはいかなる存在であるべきなのか。他人を癒すことで癒される幸福とその代償について、ササル医師は美しくも戦慄すべき事例を提供し、読後も一巻全体から受けた衝撃が後を引く。

社会の歪みとケアの本質を浮彫に

ジョン・バージャー／ジャン・モア
《果報者ササル ある田舎医師の物語》
村松 潔訳



「サール文化運動」の戦後史
道場親信 《下丸子文化集団とその時代》

一九五〇年代、全国各地の無名の若者たちが、労働のあとに集まっては詩を書き、生活記録を綴り、それを印刷・製本し、批評しあつた。文化産業がまだ未発達で、人々が貧しかったこの時代、「サークル文化運動」は一〇代から三〇代の労働者の間でまたたくまに広まり、一大ブームを巻き起こす。

「サークル文化運動」の戦後史
道場親信 《下丸子文化集団とその時代》

海外での教育システム変容を追う
根川幸男 《ブラジル日系移民の教育文化》

「下丸子文化集団」に焦点を当て、もうひとつの戦後史を浮かび上がらせる。

日本の教育システムは移民と共に越境し矛盾や相克を生み、変容し融和していった。日系移民はブラジルのナショナリズム高揚期に集中したため、ブラジル政府の移民同化政策と太平洋戦争の影響を直に受けた。そんな歴史状況下で進められた移民子弟教育の実態とその背景を詳述する。

ブラジルに長年居住し、調査・取材を続けてきた研究成果。史学領域において、日本戦前・戦中期の教育は研究がなされてきたが、本書のようないくつかの海外で行われた教育制度から顧みられた研究は希少である。そこから浮かび上がる、日本の教育制度や教育思想は、翻つて現在の政治状況分析への示唆に富むものである。「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

「歴史・教育」十月下旬刊

刑法学の第一人者が読み解く

内田博文 《治安維持法の教訓



『詩集 下丸子』表紙

権利運動の制限と憲法改正

治安維持法は大正十四(一九二五)年に制定され、数回の改正を経て猛威をふるった。本書は刑法学者が帝国議会と大審院の記録を読み解き、時勢と共に深化した国民統制のメカニズムを解明する。

当時の帝国議会議員には弁護士など法曹出身者、農民・労働者など大衆の支持を得た無産政党の指導者も多く、制

「僕はどこにかく国語的にはだめでも、ちゃんとイメージを伝えたい。」——小説家がペンを動かしながら考えるさまを同時進行的に読んでゆい。いま見えているイメージ(書いていること、読んでいる本、聴いている音楽、目にしている風景、猫...)を起点にして、思考はいつも世界の成り立ちに触れようと、気を散らしながら、前へ前へ。そしてふいに、下から上へジャンプ! 形而上の思考世界に飛び乗ろうとする——。書くこと、考えること、芸術の自由を表現する批評であり、カフカ・ベケット・小島信夫に連なるうとする小説家の小説論でもある濃密なエッセイ。

小説家の頭のなか

保坂和志

《試行錯誤に漂う》



「表現や演奏が実行される前に、まずその人がいる。その人は体を持って存在し、その体は向き不向きによっていろいろな表現の形式の試行錯誤の厚みに向かって開かれている。「これがいい演奏だ」「これがいい文章だ」と言われて、自分の体がすでに知っている(という)のは、うすうす気づいている。試行錯誤の厚みに関心を持たずに、既成の形に自分をしがらせた。模倣や縮小再生産しか生まれず(…)自分の体がすでに知っている試行錯誤の厚みに忠実であろうとしたら、既成の形との軋みが起こる。」

みすず書房新刊

(2016.5.7) 東京文京本郷5-1-3 三三三(03) (価格は税別です)

昆虫の哲学

ドルーアン 人間の昆虫観を西洋哲学にたどる科学エッセイ。円城塔 荒俣宏 養老孟司らに好評を得て重版。辻由美訳 三六〇〇円

出会いを求めて

現代美術の源流(新版) 李禹煥 「もの派」の理論的支柱による評論集。表現をめぐる思索を喚起する60年代末・70年代の思索の跡。待望の復刻。四〇〇〇円

料理と帝国

食文化の歴史 紀元前2万年から現代まで ロードン 大國の興亡と古今東西のあらゆる食文化の変遷を辿った壮大な研究の集大成。包括的な歴史。ラッセル秀子訳 六八〇〇円

科学の曲がり角

ニールス・ボーア 研究所 ロックフェラー財団 核物理学の誕生 オースター 研究所が経済援助を受けるとどうなるか。その起源をボーア財団とロックフェラー財団から考察。矢崎裕一訳 八二〇〇円

怪物君

大震災から五年、詩業を賭けて生まれた長篇詩。言葉の土台が崩れた場所から途方もないビジョンが出現する。四二〇〇円

遠読

《世界文学システム》への挑戦 モレットイ コルビュエタを駆使して古今東西の文学を分析し、世界文学研究に新たな展望を拓く革新的論考。秋草他訳 四六〇〇円

奴隷船の歴史

レイカー 海に浮かぶ地獄における残忍、強欲、抵抗を現前させる筆致。闘争歴史家による黒い大西洋史。上野直子訳 六八〇〇円

死すべき定め

何が死にゆく人に死すべき定めがあるのか。長寿時代の終末期をどう生き、最期の時をどう迎えるか。現役外科医が描く迫真のドラマ。「6刷」原井宏明訳 二八〇〇円

ヘンリー・ソロ野生の学舎

今福龍太 歩くこと、孤独、自然、文明社会のなかで自由に生きる方を考え抜いたソロ。生誕二百年その根源に迫る。三八〇〇円

過去をもつ人

荒川洋治 読書とは何か? 文章と日本語の新しい情景を見つけてきた著者がおくる、きびしくもあたたかいエッセイ集。二七〇〇円

70歳の日記

残り少ない時間と孤独のなかで探した「年をとらない秘訣」。出会い、喪失、発見にみちた濃密な二年。鷗亭子訳 三四〇〇円

精神医学歴史事典

精神医学の総体を知るために書かれた歴史事典。時代や地域を越えて関連する二一項目。江口・大前監訳 九〇〇〇円

民主主義の内なる敵

トドロフ シリア内戦、IS、難民、テロ。進歩、自由、人民というリベラルな理念がもたらす危機とは何か。大谷高文訳 四五〇〇円

他の岬

ヨロツバと 民主主義 「新装版」 デリダ 移民問題とテロに揺れるヨーロッパと民主主義を考察するために、新たにおくる。國功一朗解説 高橋・鶴岡訳 二八〇〇円

父が子に語る世界歴史

全8巻 「新装版」 ネルシー インド解放闘争のさなか獄中から一人娘に送った200通の手紙。慈愛と鋭い洞察にみちた感動的名著。大山聰訳 各七〇〇円

この私、クラウディウス

「復刊」 グレーヴス 病身で吃音症、帝位など夢みもしなかつた謎のローマ皇帝(自伝)。タイム誌「小説巨匠の傑作。多田・赤井訳 四〇〇〇円

中国の伝統思想

「復刊」 島田虔次 「儒教文明は未来を紡ぐに足る思想と確信する立脚点に立った透徹した中国思想史研究。『明末清初』各論他。五二〇〇円

死すべき定め

原井宏明訳 二八〇〇円

手話を生きて

齊藤道雄 二六〇〇円

悩む力

齊藤道雄 二六〇〇円

治りませんように

齊藤道雄 二六〇〇円

キッドサヴェージ

大沢章子訳 三二〇〇円

オシムの伝言

千田善 一九〇〇円

信じない人のための(宗教)講義

中村圭志 二〇〇〇円

暴力について

山田正行訳 三三〇〇円

地に呪われたる者

鈴木・浦野訳 三八〇〇円

日本の20世紀建築遺産

松隈洋 《ル・コルビュジエから遠く離れて》

二〇一六年七月、世界遺産に登録された国立西洋美術館の実施設計は前川國男、坂倉準三、吉阪隆正による。アメリカとは事情が異なり、日本の近代建築は彼ら三人の弟子たちを中心にル・コルビュジエ派によって推し進められてきたが、現在、ほぼ半世紀前の建物群が「モダン・ムーヴメントの貴重な作品」と認定されつつも取り壊しの危機にさらされている。神奈川県立図書館・音楽堂、京都念仏大学セミナーハウス、戦没学徒記念若人の広場ほか代表的作品の建設経緯を紹介、保存への道を探る。一九五五年、日本

日本語版オリジナル編集

C・ギンズブルグ 《ミクロストリアと上村忠男編訳 世界史 歴史家の仕事について》

長年にわたり世界の歴史学を牽引してきた著者の現在を伝える日本語版オリジナル編集の7編。十六世紀の「粉挽集」の世界像を描いた「チースとうじ虫」(一九七六)以来、数々のミクロストリアと事例研究をおとす歴史家の課題に挑んできた著者の仕事は、本書収録の「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)



ル・コルビュジエ 滞日時(1955年)

「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)

「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)

「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)

「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)

「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)

「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)

「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)

「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)

「世界を地方化する」(四六判・304頁・四二〇〇円)

書評コラム

大きな反響を得た『ミトコンドリアが進化を決めた』の著者が、当時の理論を直近十年の研究に基づいてバリエーションアップし、生命進化最大の謎にさらに肉迫する。

絶え間なく流動する生体エネルギーは、進化の潮流にもさまざまな「制約」を課してきたと著者は言う。その制約こそが、最初の生命からあなたに至るまでのすべての生物を彫琢してきたのだ、と。

「化学浸透圧」というエネルギー形態のシナリオを説得的に描きだす第3章、「1遺伝子

あたりの利用可能なエネルギー」を手がかりに真核生物と原核生物の間の大きなギャップを説明する第5章など、目の覚めるようなアイデアを次々に提示。進化史の新たな切り口を幅広い読者に向けて問う、圧倒的なスケールの生命進化論に仕上がっている。

最新、海中に漂うプランクトンの観察という、これまで考えられなかったダイビングが人気が高い。これに熱中する友人が言うには、「アイコンタクト」してきて、心が通うのだそう。それができる人間の登場は、ちよつとした珍事である。

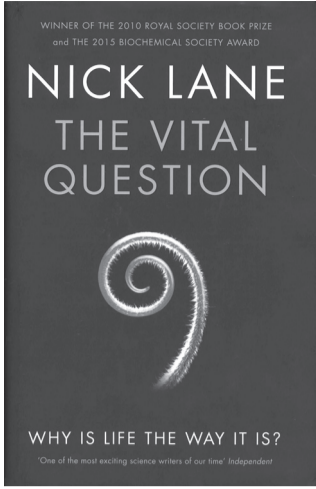
本書はまさにそんな驚きに満ちた論考である。人間の昆虫観を西洋哲学から丁寧に後追いつける真面目さが、よい意味で度を越してあり、滑稽さすら感じさせ

おり、滑稽さすら感じさせない虫たちを主役とし、犬が死ぬと泣けるのに昆虫は平気で殺せる矛盾した性向の秘密を解き明かす本なのだ。

「原書書評より」◆愕然とするほど従来の枠にとらわれない生物学の見方……魅惑的で説得力もある。「ニューヨークタイムズ」◆なぜ生命はこのような形になったのか、その秘密の解明に迫っている。(マット・リドレー)◆この本にはぶつ飛んだ。(ビル・ゲイツ)

進化史最大の謎に肉迫

ニック・レーン 《生命、エネルギー、進化》 斉藤隆史訳



古代西洋では、動物の姿や行動を、道徳や倫理を教える生きた手本と位置付けてきた。それが博物学の進展とともに、社会や政治経済に対しても、生きた教訓とみなされていく。

荒俣宏 『昆虫の哲学』 辻由美訳 を読む

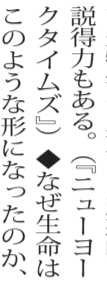


昔はハチの王がオスと信じられたからいいけれど、メスと分かるにつれ、ハイレムを持ったアマゾネス社会は母権社会の象徴となり、女性の権威が強かったフランス王制と重ねあわされたあげくに、奴隷制や

「生物学」【九月下旬刊】(四六判・408頁・三六〇〇円) ◆N・レーンの好評既刊『ミトコンドリアが進化を決めた』『生命の跳躍』(いずれも斉藤隆史訳、各三三〇〇円)

「戦後美術のダイナミズム」酒井忠康 《芸術の海をゆく人》 回想の土方定一

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳



「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「愛情地理学」の名エッセイ ロジェ・グルニエ 宮下志朗訳

「パブリッシャーズ・レビュー」連動企画ブックフェア レビュー合戦 2016. 開催書店一覧 (開催時期など異なりますので、詳細は各店へ直接お問い合わせください)

大島渚から角川映画まで

御園生涼子 <<映画の声>>

戦後日本映画と私たち

「もし死刑という制度に例外的事態が起こってしまったとするならば、すなわち、死刑の執行が失敗し、その後も被告人が生き延びてしまったとしたら、一体何が起きるのか? こうした一見、抽象的な思考実験とも思える問いを通して、大島は「国家」という制度の核心へと近づいてゆく。」

「日本の夜と霧」「絞死刑」「儀式」「二十四の瞳」「森と湖のまつり」「仁義なき戦い」「セーラー服と機関銃」――大島渚や木下恵介から実録やくさ映画、角川映画まで、日本映画は戦後民主主義と大衆消費社会の結節点に存在して



映画『二十四の瞳』より

夢に関する主要な6論文

C.G.ユング

横山博監訳 大塚紳一郎訳 <<ユング 夢分析論>>

「夢とは象徴化を行う人間の能力を研究する上で最も一般的かつ普遍的にアクセス可能な源泉である」

本書は夢に関するユングの主要な論文を集めたものである。「夢分析の臨床使用の可能性」「夢心理学概論」「夢の本質について」「夢の分析」「数の夢に関する考察」「象徴と夢解釈」の6編。夢について

「臨床心理学」と「夢解釈」の6編。夢について

収容体験からの思索

ジャン・アメリー <<罪と罰の彼岸 打ち負かされた者の克服の試み(新版)>>

池内紀訳

ユダヤ系オーストリア人の思想家アメリーは、ナチスによる幾度もの拘束と収容、逃亡を繰り返して生き延びた人物である。残忍な描写を避けながら、精神の営みを無にする収容生活、拷問体験を通して、個の尊厳を奪い尽くす人道への大罪を思案的に綴る。一九四五年四月十五日、ベルゲン・ベルゼン強制収容所を解放されたアメリーは、妻

「文学・思想」(九月下旬刊) (四六判224頁・予三七〇〇円)

ユダヤ人作家エリ・ヴィーゼル死去 (一九二八年生。四四年アウシュヴィッツの強制収容所にシユヴィッツの強制収容所に

「建築オノマトペ」を増補

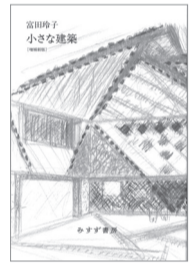
富田玲子 <<小さな建築(増補新版)>>

学校も、オフィスも、公民館も、人々が長い時間を過ごす暮らしの場。心地よく暮らすための設計の方法とは? 一九七一年から続く「象設計集団」の創設メンバーとして、小学校、中学校、保育園、老人ホーム、公民館、庁舎、美術館、温泉施設、道など、地域に根ざした多彩な空間を生み出しつづける著者が、共同性の思想、みずから建築設計のプロセス、建築家にな

るまでの道をはじめ語る。人も、風も、光も、木も、鳥も、ともに呼び込む、よここびあふれる建築論。あらたに「建築オノマトペ」を増補。「建築

オノマトペ」328頁・二八〇〇円 (四六判・328頁・二八〇〇円)

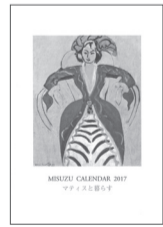
「カバ」は著者スケッチ



「カバ」は著者スケッチ

みずす 美術カレンダー 2017 のご案内

二〇一七年版は、特集「マティスと暮らす」をお届けします。油絵、切絵、挿絵など画家マティスの選りすぐりの作品を収めます。来年一月から東京・パナソニック汐留ミュージアムで、また四月からは大阪・あべのハルカス美術館で、マティスとルオーの往復書簡をめぐる展覧会が開催されますが、小社では、書簡集『マティスとルオー 友情の手紙』を刊行予定です。ご期待下さい。



MATISSE CALENDAR 2017

みずす書房 営業部だより

年に一度の本の祭典「東京国際ブックフェア」が、9月23日(金)から25日(日)まで、有明の「東京ビッグサイト」にて開催されます。みずす書房は例年通り、「書物復権10社の会」の一員として出展いたします。今年も期間が三日間に短縮され、読者謝恩と銘打って、書籍の販売に特化したフェアとなります。

みずす書房は話題の最新刊「ロングセラーを中心に」展示販売いたします。在庫僅少本

ご希望の方に「東京国際ブックフェア2016」招待券をプレゼントいたします。ご住所・郵便番号・お名前と必要枚数を明記の上、今日19日(月曜、必着)までに、本紙同封のハガキまたは小社サイト

http://www.ms.z.co.jpにて、急ぎお申し込み下さい。

コーナーも設置し、ご満足いただける品揃えで、読者の皆様をお待ちしております。新企画の情報も発信いたしますので、どうぞみずす書房ブースまで足をお運び下さい。

「東京国際ブックフェア 招待券プレゼント 締切間近」

新装版 8・9月

ひとり居の日記

メイ・サートン 武田尚子訳



新鮮なメッセージを携えて登場したアメリカの詩人・小説家の代表作。孤独と友人の両方を大切に、想念を飛翔させた一年間。その精神の佇まいに感応する広い年齢層の読者に支えられ、ロングセラーに。新刊『70歳の日記』を機に待望の復刊。¥3400

V.E.フランクル 新装復刊

時代精神の病理学 心理療法の26章

永遠の名著『夜と霧』の著者が、第二次大戦前後の社会と心理療法の関係語る。宮本忠雄訳 ¥3400

識られざる神

無意識が内在する宗教性を鍵に、人間の本質を探る。実存分析からの精神療法。佐野・木村訳 ¥3400

神経症 その理論と治療

理論と実践が最も体系的にまとめられた、精神医学を超える拡がりの書。宮本・小田・霜山訳 ¥5400

C.G.ユング 新装復刊

心理療法論

世界観や倫理的問題、政治との関係などにも目配りされた特に重要な6論文収録。林道義編訳 ¥2800

個性化とマンダラ

自立した個体のシンボル=マンダラの卓抜な解釈。ユング心理学の秘儀を開示する。林道義訳 ¥3600

転移の心理学

メルクリウスの泉/王と女王/裸の真実……錬金術の絵で語る転移=個性化過程。林・磯上訳 ¥3700

みずす書房 近刊のお知らせ

11-12月の刊行予定から

- 幼年の色、人生の色 長田弘
建築の前夜 前川國男論 松隈洋
肥満の人類生物学―ヒトは太り続けている M.L. パワー/J. シュルキン 山本太郎訳
テクノロジーは貧困を救わない 外山健太郎 松本裕訳
戦争文化と愛国心 海老坂武
失くしたものの 斎藤貴男
歴史学者の工房 草光俊雄
和解のリアルポリティクス 武井彩佳
トリエステの亡霊 J. キャリー 鈴木昭裕訳
ハンザ 12-17世紀 フィリップ・ドラング 高橋理他訳
夢遊病者たち―第一次世界大戦はなぜ始まったか クリストファー・クラーク 小原淳訳
歴史家の展望鏡 山内昌之
(ウェブサイトにもご案内しています http://www.ms.z.co.jp/book/new/)

みずす書房・最近の重版より

- 亡き人へのレクイエム 池内紀 ¥3000
夜 [新版] E. ヴィーゼル 村上光彦訳 ¥2800
イデーン I-I E. フッサール 渡辺二郎訳 ¥6800
死すべき定め―死にゆく人に何が出来るか A. ガワンデ 原井宏明訳 ¥2800
失われてゆく、我々の内なる細菌 M. J. プレイザー 山本太郎訳 ¥3200
アメリカの反知性主義 R. ホーフスタッター 田村哲夫訳 ¥5200
時間かせぎの資本主義 W. シュトレック 鈴木直訳 ¥4200
昆虫の哲学 J.-M. ドルーアン 辻由美訳 ¥3600
テクニウム―テクノロジーはどこへ向かうのか? K. ケリー 服部桂訳 ¥4500
量子力学 II [第2版] 朝永振一郎 ¥6000